

相手の感情を声だけで推測します。

概要

- 顔を見れば相手の感情は推測できるが、声だけでは難しい。
- 機械にも私の感情を分かってほしい。
- クレームの電話をしているのに、明るい声で対応されるとイラっとすることもある。



特徴

- 音韻単位の認識であるため、言語の種類・個人差・地方差に影響されず、不特定多数を対象とした音声認識に適する。
- 短い会話や単純な会話でも、感情の強度を判定可能、特に「怒り」の感情認識に強い。
- 話者の感情あるいは発話態度によって、音声の中のところどころに音韻単位で観察される「裏声」「力んだ声」「気息性の声」などの特定の音響特性から、特徴的な音色を検出して感情を認識するシステム。

「怒り」を認識した場合の応用例

自動応答システムで
丁寧に應對

お客様大変申し訳
ございませんが...



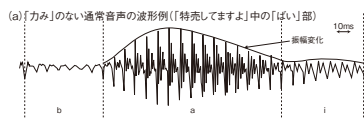
アバター・キャラクター画像で
画像の変更



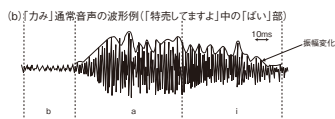
対話ロボット・AIスピーカーで
誤認識(?) → 実行コマンドの修正



通常波形



「カミ」がみられる波形
※「カミ」=怒りの感情の時に発生



※音韻

- 「h」(声門によって構音される無声摩擦子音)
- 「k」(軟口蓋によって構音される無声破裂子音)
- 「d」(硬口蓋によって構音される有声破裂子音)
- 「m」(口唇によって構音される鼻音)
- 「g」(軟口蓋によって構音される有性破裂子音)

活用

- コールセンター、自動電話応対システム、電子秘書システム、アバターやキャラクター画像との対話、対話ロボット等、音声対話によるインターフェースを持つ対話システム。

